

# 相模原市山岳協会創立70周年記念登山



## 北海道大雪山系

令和5年7月14日(金)～7月18日(火)

相模原市山岳協会創立70周年記念登山実行委員会

## 目次

1 参加者一覧 .....	P1
2 行程概要 .....	P2
3 登山記録 .....	P3
4 感想文	
やまびこクラブ	
市川 栄子 .....	P9
岩澤 幸子 .....	P10
後藤 とも江 .....	P11
中根 加奈子 .....	P12
さわらび	
榎本 幸二 .....	P13
榎本 正 .....	P14
相模山路会	
鮎川 真澄 .....	P15
井山 みつ子 .....	P16
小林 ふくえ .....	P17
勝又 尚之 .....	P18
小池 洋司 .....	P19
柴野 正久 .....	P20
村田 英二 .....	P21
暁山岳会	
小池 重憲 .....	P22
国井 一卓 .....	P23
田中 玲子 .....	P24
千々和 宗一 .....	P25
細田 剛 .....	P26
森 秀光 .....	P27
ケルンの会	
市川 喜久夫 .....	P28
村松 千鶴子 .....	P29
山崎 由佳里 .....	P30
中村 富夫 .....	P31

## 1 参加者一覧

No.	氏名	A隊	B隊	所属
1	市川 栄子	○		やまびこクラブ
2	岩澤 幸子	○		
3	後藤 とも江	○		
4	中根 加奈子	○		
5	榎本 幸二		○	さわらび
6	榎本 正	○		
7	鮎川 真澄	○		相模山路会
8	井山 みつ子	○		
9	小林 ふくえ	○		
10	勝又 尚之		○	
11	小池 洋司		○	
12	柴野 正久		○	
13	村田 英二		○	暁山岳会
14	小池 重憲		○	
15	国井 一卓		○	
16	田中 玲子		○	
17	千々和 宗一		○	
18	細田 剛		○	
19	森 秀光		○	ケルンの会
20	市川 喜久夫	○		
21	村松 千鶴子	○		
22	山崎 由佳里	○		
23	中村 富夫		○	
合計(人)		11	12	23

## 2 行程概要

### 7月14日(金)

7:00 相模原駅 → 7:30 相模大野 → 9:00 羽田空港着 -自由行動- →  
11:15 羽田空港発 → 12:50 旭川空港着 → 14:00 ザ・ビック宮前通り店  
(行動食・ガスカートリッジ等購入) → 16:00 大雪山白樺荘(泊)  
※B隊4名が途中レンタカー2台で層雲峡へ向かい、1台デポし大雪山白樺荘へ(18:00着)

### 7月15日(土)

6:00 大雪山白樺山荘発 → 6:10 旭岳ロープウェイ → 7:00 姿見駅 →  
7:20 姿見の池 → 以降各隊登山詳細は後述  
A隊 層雲峡マウントビューホテル泊 B隊 層雲峡オートキャンプ場泊

### 7月16日(日)

A隊 8:00 層雲峡マウントビューホテル → 9:00 ヒグマ情報センター・沼巡り →  
14:30 三国峠 → 15:20 タウシュバツ川橋梁展望台 → 16:00 糠平温泉(泊)  
B隊 7:30 層雲峡オートキャンプ場 → 8:00 銀河・流星の滝 → 9:30 ヒグマ情報セ  
ンター・沼巡り → 上土幌町で買い出し → 17:00 トムラウシ野営場(泊)

### 7月17日(月)

A隊 6:30 糠平温泉 → 白雲山登山(詳細は後述) → 14:30 トムラウシ温泉(泊)  
B隊 3:50 トムラウシ野営場 → トムラウシ山登山(詳細は後述) → 16:00 トムラウシ温  
泉(泊)

### 7月18日(火)

8:30 トムラウシ温泉 → 10:15 道の駅おとふけ → 11:15 帯広はげ天 →  
12:45 帯広空港 → 16:30 羽田空港 → 18:30 相模原駅  
※B隊2名はトムラウシ温泉 → 旭川でレンタカー返却 → 旭川空港 → 羽田空港

※B隊は当初旭岳～トムラウシ山の縦走を計画していたが、白雲岳避難小屋周辺にヒグマが出没して  
いた関係で予定していたテント泊が不可となり、旭岳～黒岳縦走及びトムラウシ山ピストンに変更と  
なった。

### 3 登山記録

7月15日(土)旭岳～黒岳縦走

#### A隊・B隊共通

5:30 大雪山白樺荘エントランス集合(ストレッチ)

6:00 大雪山白樺荘出発

6:20 旭岳ロープウェイ乗車

6:30 姿見駅

7:00 姿見登山口出発

7:20 姿見の池で集合写真





## B隊

- 8:50 金庫岩
- 9:10 旭岳山頂
- 10:30 間宮岳山頂
- 11:12 中岳山頂
- 11:42 北鎮岳分岐
- 12:00 北鎮岳山頂
- 13:04 黒岳石室
- 13:44 黒岳山頂
- 14:34 7合目リフト
- 15:30 黒岳ロープウェイにて層雲峡



終日、雨が降ったりやんだりであったが、時折雲の切れ間から青空がのぞいていた。元々悪天候を予想していた割には展望もあり、北海道の大自然が望めた。メンバー12人中11人が男子であったが、本州では見られない花に「かわいいなあ。」を連呼しながら撮影に勤しんでいた。

### ○リフト乗り場にて

別行動中のA隊のことを気にかけていた勝又リーダーがリフトの最終時刻の確認と仲間がまだ山中にいてリフトを利用する事を乗り場係員に伝えた。

最終時刻を過ぎても別途費用を支払う事でリフトゴンドラは動かしてくれる事を確認した。

### ○最後に

トムラウシ山への縦走を参加のきっかけとなったメンバーにとっては、宿題が残る形とはなったが、協会の事業としては、親睦も深められ意義のある山行であったと思う。

最後にやはりリアルなひぐまを…遠くからでも見たかったというのが、全員の共通した思いではなかっただろうか…

## 7月16日(日)大雪高原温泉沼巡り

### A隊・B隊

#### A隊

- 9:00 ヒグマ情報センター着
- 9:30 レクチャーをへて緑沼へ出発
- 11:15 緑沼
- 13:00 ヒグマ情報センター

#### B隊

- 10:00 ヒグマ情報センター着
- 10:30 レクチャーをへて緑沼へ出発
- 11:20 緑沼
- 12:15 ヒグマ情報センター



今日は、バイキングの朝食をゆっくりいただき、ホテル出発。1時間ほどで大雪高原温泉に到着し、ヒグマ情報センターでクマに関するレクチャーを受けた後、温泉に入るためにやってきたB隊に見送られ、沼巡りに出発。ぬかるんだ道だが花も多い。途中大きなクマの足跡や、水芭蕉の茎を食べた食痕が多く見られ、クマの生活圏に入り込んでいることを実感する。道は、危険箇所がわかりやすく示されており、センターの管理が行き届いていると感じた。

沼巡りコースの半分以上は子連れのクマが出没しているため、緑沼までの往復となった。緑沼では高根ヶ原の稜線を眺めながらゆっくりと休憩をとった。沼に映る木々が美しい。今の季節は稜線下の斜面でクマが目撃されることも多いらしいが、この日は会うことはできなかった。温泉はまだ開かないため、急ぎよやってきたB隊も到着し、写真撮影。北大クマ研のグループやセンターのスタッフなど、たくさんの人で賑わっていた。

元来た道に戻り、バスで三国峠へ。普段見慣れない北海道の山の景色を楽しんだ。その後、糠平湖にかかるタウシュベツ川橋梁を見に展望台へ。干上がった湖面にかかる橋は幻想的で、皆感激していた。



## 7月17日(月) 白雲山

### A隊

- 7:40 白雲橋駐車場
- 9:40 白雲山
- 11:15 白雲山・天望山コル
- 11:45 天望山登山口
- 12:20 白雲橋駐車場



天望山はヤブが深く危険という情報を得て、白雲山のための行程に決まった。然別湖畔の登山口に着くと、湖の中に舟を移動させるための線路のようなものが見えた。

登りはじめは風がなくて蒸し暑く、汗がふきだす。うちわやせんすであおぎながら急登を登り終え、なだらかな道に入ると、ダケカンバの林にガスがたちこめ幻想的な風景が見られた。

大きな岩が積み重なる所を両手を使ってよじ登ると白雲山頂上。せまい頂上だが何とか全員で記念撮影していると、雲が切れて然別湖が姿を現した。千葉から来たという人が、クマ騒ぎでトムラウシ縦走ができなかったため、白雲岳と似た名前の白雲山に来た、と話していた。

下りも急で、白雲山というふわっとした名前のわりには緊張する山だと思った。天望山とのコルまで下りてほっとひと息。その後は然別湖の美しい湖面を右手に眺めながら湖畔の森を歩いてバスの待つ駐車場に着いた。

## 7月17日(月) トムラウシ山

### B 隊

- 3:50 トムラウシ野営場出発
- 4:40 短縮登山口出発
- 5:45 カムイ天上
- 7:15 コマドリ沢出合い
- 8:20 前トム平
- 9:10 トムラウシ公園
- 9:50 南沼キャンプ指定地
- 10:30 トムラウシ山頂
- 11:00 南沼キャンプ指定地
- 11:45 トムラウシ公園
- 13:00 コマドリ沢出合い
- 14:30 カムイ天上
- 15:35 短縮登山口



2時30分起床 前日の雨は止んでいるが湿度が高い。テントを撤収し各自準備する。

3時50分レンタカーでトムラウシ野営場を出発し短縮登山口へ移動。

1隊、2隊の隊列で標高960mの短縮登山口を4時40分に出発。ここからコマドリ沢の上までの2時間以上のルートはぬかるんでいて非常に歩きに苦労した。ヒグマが多い地帯で特に早朝なので、熊が潜んでないか注意を払い進む。コマドリ沢への急登を下って休憩する。ここから雪渓横の急登を登り返す。この付近でヒグマの糞らしき物を発見した。前トム平への登り途中で本格的な雨が降り出しレインウェアを着こむ。トムラウシ公園付近にはチングルマなどの花畑が広がり、標高が上がっていること認識できた。ガスで視界は悪かったが時々ガスが晴れるタイミングがあり、せせらぎと大きな岩、緑や花が調和した美しい景色を見ることができた。

9時50分、山頂下の南沼キャンプ指定地に到着。予定よりも早いペースで到達できた。引き続き雨は降り山頂は更に風が強いことが予想されるので、装備を再チェックし手袋を装着する。風がとても強く、時折突風にあおられバランスを崩すほどだった。山頂までのコースタイムでは30分だが、強風に立ち止まったり正面から受けないように斜めに歩いたりして40分かかった。最後は岩を這い上がるような形でトムラウシ山頂2141mに到着。メンバー11人と握手を交わし健闘を称え、ペナントを掲げ記念撮影した。名残惜しいが風が強く滞在できる天候ではないので、早々に引き返す。

復路は2隊、1隊の順で下山した。風が弱い場所で休憩しようということになり急いで下山したが、結局1時間以上下り、11時45分トムラウシ公園で休憩する。その後、前トム平下の岩場で鳴きウサギの鳴き声を聞いた。注意深く見渡したが、その姿はなかなか発見できなかった。コマドリ沢からの登り返しと2時間程度のぬかるみ歩きは体力的にも精神的にもきつかった。大気が不安定なのか断続的な強い雨に打たれた。隊列が離れてしまい最終は15時30分に短縮登山口に到着した。全員の無事の下山を確認しレンタカーでトムラウシ温泉に移動した。

## 4 感想文

### ▼やまびこクラブ

#### 創立70周年記念登山に参加して

市川栄子

相山協の記念登山は、10年毎に計画され40周年より海外遠征が続きました。40周年は、カナダのロブソン(14日間)50周年は、マレーシアのキナバル山(5日間)60周年は、アメリカのライエル山(8日間)が計画実行されました。

今回70周年は、コロナ禍により海外は断念し北海道の大雪山系に決まりました。40周年からずっと参加して来ましたが、それぞれに忘れ得ぬ思い出がよみがえります。今回は、大雪縦走A隊で参加しました。トレーニングも済ませ出発を、5日後に控えた時の事です。B隊トムラウシ縦走1泊目の白雲岳避難小屋辺りに罫が居着き、危険なので直前にコース変更を余儀なくされました。忙しく出発の日を迎え大雪山に向かいました。

2日目、旭岳から黒岳縦走です。正に百花繚乱ピンクのエゾノツガザクラ、紅紫色のエゾツツジ、大群落を作るチングルマ、黄色のメアカンキンバイ、チシマクモマグサ、ハクセンナズナも咲いていました。一緒に歩いていた井山さんに「市川さんは綺麗ね。可愛いね。しか言わないよ」と、言われてしまう程高山植物に見とれ、逞しく美しく咲く小さな花々にエールを送り続けていました。風が強く小雨が降る1日でしたが、全員で歩き通し最終のリフト、ゴンドラに乗って層雲峡温泉に下りました。

3日目は、沼巡りコースです。生々しい大きな罫の足跡と、水芭蕉の食痕を見て「くまさんのテリトリーにお邪魔している」事を強く感じました。縞エゾリス、エゾシカ等の動物にも出会い、自然豊かな北海道を堪能しました。

出発直前より罫出没情報に振り回されましたが、大きな事故も無く、相山協会員相互の交流も深まり、成功裏に終わった相模原市山岳協会70周年記念登山であったと思います。今回も参加出来た事を嬉しく思っております。



## 相山協 70 周年記念登山に参加して

岩澤 幸子

かつて旭岳・黒岳に登頂いつかは縦走してみたいと思っていましたが、記念登山の行先が北海道(大雪縦走)に決まり、夢が叶いました。

事前トレーニングを経て、いよいよ北海道へ出発。

大雪縦走は、ロープウェイで山頂駅へ降りるとあいにくの雨模様でしたが、チングルマやエゾツガザクラ、キバナシャクナゲなど沢山の高山植物が待っていてくれました。

旭岳から黒岳までの縦走は、お鉢平をはじめ北海道の雄大な大自然を満喫しながら歩くコースでした。登山道脇には、お花畑が広がり、同じ植物でも思わず写真を撮りたくなり疲れていても元気ができました。

登山二日目は、沼巡り、ヒグマ情報センターでレクチャーを受け出発。当初予定していた、周回コースはヒグマ出没の為歩けず残念でしたが、また機会があればぜひ訪れてみたいと思いました。

登山三日目、然別湖畔の白雲山へ。歩き出してからしばらくは登りが続き風もなく蒸し暑い登山でしたが、時折ふく風とひらけた場所から見える然別湖がとても印象的でした。

上の方はガレ場、山頂部は岩山で、眼下に見えた然別湖は忘れられません。

昨年より、数回の会議を重ね、行き先など色々検討し行程などを考えていただいたリーダーの方々には感謝です。とても楽しい山歩きができました。

5日間、他のクラブの方と交流し、とても貴重な時間を過ごすことができ、自分にとってもいい経験と思い出になりました。



## 『大雪山縦走登山を終えて』

後藤 とも江

バイクでは何度か訪れている北海道で、山登りすることになって自分でも驚いている。コロナ禍で県外ツーリングもままならず、丹沢に登り始めたのがきっかけでハマった登山。その勢いのまま今回の記念登山に参加した。

まずはじめに申し上げたいことは記念登山に関わった皆様への感謝で、無事全行程を終えるためのご尽力に頭が下がる。全行程の中での的確な判断を教示くださったそのほんの一部をここに記載してお礼の気持ちに代えたい。

出発当日のバスの中で知った直前のコース変更。トムラウシ隊のコースは熊の出没によって縦走が困難になったり、大雪山縦走隊では緑沼周回が出来なくなったりした。そのためにレンタカーの手配や、航空券の取り直しなどが必要になったそうだ。人生初の雪渓では、歩き方を教えていただいた。雪の上なのに緊張して汗びっしょりになった。山の天気は急変する、雨や風が強くなると急激に体温が奪われる。そのようなときは低体温症の対策として、食べ物を口に入れ体の中から保温したり、一枚多く着たりするよう助言いただいたおかげでその後の山歩きがらくになった。下山のリフトの最終時間が迫った時、経験値の高い方2名が先に下り段取りしてくださった事も臨機応変の対応だったと感心した。白雲山、天望山登山を翌日に控えた時、宿泊先周辺にある情報センターで最新の状況を手し、天望山は藪こぎになり10人で間違った道を行くことで新しい道を作ってしまうリスクを考慮してこちらは断念することになった。

まだ書き切れない要所要所での判断のお陰で、自然と共存する地元の方々の姿勢を感じられたり、神々が遊ぶ庭で遊ばせていただいたり。そんな貴重な体験が心の宝箱に一つ増えた山行になった。



## 70周年記念登山に参加して

中根 加奈子

今回、相模原山岳協会の記念登山に参加させて頂きました。初めにこのお話を聞いたときは、「私には無理だろうなあ」と思っていたのですが、会の方からの「参加してみては？」というお声がけに、「行けるのなら…。きっと一生行くことはないだろうし…。」と、参加させて頂くことにしました。

話は聞いていましたが、初めての旭岳から黒岳までの縦走は、貴重な経験になりました。小雨交じりの山行で、本来雨でなければ、暑かったのか、ただ、風は吹き飛ばされそうなほどの強さであったので、リーダーからの低体温症を心配しての声掛けから、通常も寒いのか、結局わかりませんでした。

小雨の中とはいえ、お花畑の群生が、北海道ならではのスケールで、感動しました。疲れがたまり、何とかリフトが見えた時は、安心しましたが、リフトが長く、足の疲れをぶらぶらさせて、しのぎました。

翌日のヒグマ情報センターからの沼巡り、クマが居ついてしまったため、予定のルートは行けませんでした。穏やかな時間を過ごすことができました。とはいえ、明らかなクマの痕跡を見ると、すぐそばにクマがいることがわかり、自然とともに生活されている北海道の方々がいるということに気づかされました。

私達の隊は、毎日宿に泊まり、温泉に入ることができたので、食事も宿により変化があり、楽しみの1つでした。

また、今回、他の山岳協会の方とご一緒し、4泊5日を過ごすことができたことが、貴重な経験になりました。

山行と観光の両方取りをしたような記念登山に参加でき、貴重な経験をすることができたことに、感謝申し上げます。

ありがとうございました。



## ▼さわらび

### 70周年記念登山で得たもの

榎本 幸二

相山協70周年記念登山、参加したい気持ちはあったが、仕事の関係で休みが取れるかも分からず、「行けたら行こう」くらいの気持ちでエントリーしたものの、気が付けば記念登山部会長に…。とは言っても全くその役目を果たすことはできず、事前の各種調整は会長と勝又さんにお任せする結果となってしまいました。直前での予定変更等にもご対応いただき感謝申し上げます。

記念登山は当初予定していた旭岳～トムラウシの縦走ではなく、旭岳～黒岳の縦走とトムラウシ山のピストンとなる。ヒグマが原因だが、そもそもこちらは彼らのテリトリーにお邪魔をする身なので文句を言える筋合いはなく、与えられた状況で楽しむしかないと気持ちを切り替える。

旭岳～黒岳の縦走は車の回送が必要なため、自分は縦走せずに旭岳のピストン。山頂から黒岳に向かう縦走路に後ろ髪をひかれながらもロープウェイに引き返す。下山口の層雲峡に向かう途中で夜の食材を調達。前日に、トムラウシでは虫除けネットが必ず必要とのことで調達を頼まれたが、どこにも売ってなくやや焦る。一瞬代わりに洗濯ネットを購入しようか迷ったがやめておく。結果としてトムラウシに虫はいなかったのが正しい判断であった。

その後は皆さんと合流しキャンプ場でのバーベキュー。翌日は移動が中心となったが、途中でヒグマセンターへ。真摯に自然と向き合おうスタッフの皆さんの熱意に感銘をうける。4日目のトムラウシ山は天望には恵まれなかったものの全員無事に登頂。最終日の旭川へのロングドライブは飛行機の時間に遅れそうな緊張感があったが、飛行機の出発が遅れたため事なきを得る。

登山としては物足りない部分はあったが、「どこに登るか」と同じくらい、「誰と登るか」が大事だということに改めて気づかされた旅であった。雨を降らせる方、泥に強い方、バーベキューが得意な方等々との新鮮な出会い、そして旧知の方々との久しぶりの山行、70周年という節目の年に皆さんと一緒に山に登れたことが何よりの財産である。



## 70周年記念登山を終えて

榎本 正

70周年記念登山にあたって私は、主に全体的なスケジュールの作成を担当した。宿泊先や搭乗券の手配等全ての段取りが済んだ出発の5日前のことだった。トムラウシ縦走隊のリーダーである勝又さんから連絡が入り、トムラウシ縦走のコース上に熊が出没するためテント泊はできないとのこと。近隣の山ならともかく北海道の山となると既に搭乗券、宿泊先等の手配も済んでいるため、予定している日程の中でコースの変更を行わなければならない最終的に今回のコースとなった。コースは決まったが、層雲峡からトムラウシ登山口への移動手段をどうするか、1番良いのは層雲峡でレンタカーを借り、帯広で乗り捨てる、これができなければマイクロバスをチャーターすることで観光会社に打診したが7月の連休中でありいずれもないとのこと。最終的にネットで旭川の営業所にワンボックスレンタカーが残り2台あるとのことで即予約、1台はハイエースであったためこのレンタカーが荷物も積めるし活躍した。

ただし、このレンタカーは借りた営業所(旭川)に返却する必要があるため、レンタカーのドライバー2人は帰りの帯広空港からの便には乗ることができず2人は別便で旭川空港からの帰ることとなった。

大雪縦走隊は予定どおりのコース、日程を無事終了することができたが、トムラウシ縦走隊にあっては、メインの縦走ができなかったことが残念であった。しかし最終日前日の宿泊がトムラウシの東大雪荘の予約が出来たこと、そこでの夕食が我々のメンバー23人で揃ってとれたことが何よりであった。





## ▼相模山路会

### 大雪山で見たもの

鮎川 眞澄

バスの窓から見える、どこまでも広がるトウモロコシ畑や牧場、遠くの原生林。山に上がる噴煙、なだらかな斜面のお花畑。昔この地が切り拓かれる前、アイヌの人々はどんな景色を見て、どんな暮らしをしていたのだろう。凍てつく冬はどれほど厳しいのだろう。良い季節に訪れただけでは、想像もできない。

経験豊富なリーダー、サブリーダーのおかげで、普段行き慣れない山域でも安心して足を踏み入れることができた。登り始めから雨具をつけるような天気だったが、旭岳の頂上を過ぎるころまでは天望もよく、周りの山やお花畑をたんのうした。ガスに包まれてからは一気に寒くなり、吹きさらして休憩場所にも困るような状況だったが、体温調節やエネルギー補給の適切な声かけがあり、とても救われた。

ガスの切れ間から見えた御鉢平は雄大で、感動した。縦走の途中、構造土(土が凍ったり溶けたりしてモコモコと盛り上がったところ)がたくさん見られ、あきることがなかった。ここでしか見られない花や地形、それと2回も遭遇できたエゾシマリス。確信はないが、エゾモモンガが滑空するところも見た気がした。

今回の山行では貴重な経験がたくさんでき、楽しい時間が過ごせたこと、心から感謝します。企画調整していただいた方々、本当にありがとうございました



## 大雪縦走隊 A に参加して相模山路会

井山 みつ子

70周年の記念登山に東大雪の山行を提案し、参加者の賛成をいただきました。

7月15日、榎本隊長をはじめとして、A 隊総勢11人が姿見の池登山口から旭岳を目指して登りました。旭岳山頂では少しの晴れ間があり景色も堪能できました。中岳に下る雪渓は慎重に足を運び通過できました。大雪縦走路はお花畑が途切れることなく続き、雨、風の登山でしたが久しぶりに高山植物を見て、うれしくなりました。黒岳山頂手前の登山道に現れたエゾシマリスをメンバー全員が見ることができました。うれしい場面でした。あとは層雲峡に下山ですが、なかなか手ごわい道で時間がかかりました。リフト、ロープウェイに乗り継ぎ無事に下山しました。宿泊先の温泉に入り疲れがとれました。

16日は高原沼巡りハイキングですが、熊の出没で緑沼までの往復に変更となりました。ヒグマ情報センターでレクチャーを受け出発。登山道では大きな水芭蕉やクマの足跡、食こんなどを見ました。緑沼は静かで上の縦走路下の雪渓が見えています。休憩していると予定外でしたが B 隊も来てくれました。下山後はマイクロバスで移動、三国峠やタウシュンベツの橋などを見学して糠平温泉へ到着。

17日は然別湖畔の白雲山登山です。登り始めは蒸し暑かったが途中で気持ちの良い風を感じました。左下方に然別湖を見て歩き、最後は岩を登って山頂です。ここからは然別湖が良く見えます。わいわいがやがやと山頂で写真を撮り、休憩後に下山開始です。慎重に岩を下り天望山の分岐に降りてきました。天望山は登山道の状態が悪いとのことで今回は白雲山のための山行となりましたが景色もよく、思い出に残る記念登山でした。参加された皆様ありがとうございました。感謝いたします。



## B 隊リーダーを終えて思うこと

勝又 尚之

2023(令和5)年7月14日から18日の5日間日程で、創立70周年記念北海道登山は実施された。2022年4月のアンケート集計時には、同年7月にバリエーション登山前穂北尾根の登攀希望もあったが、経過は覚えていないが最終的に北海道のみとなった。2023年になり、B隊のリーダーを引き受け、4月に雨の丹沢で合同宿泊訓練を行ったが、この山行で自信をつけたメンバーも多かったことだろう。

自身としては、創立40周年記念登山「ロブソン」以来の2回目の記念登山参加であったが、今回B隊リーダーを担当し、改めて40周年記念時の登攀隊リーダーのO先輩やサブリーダーのT先輩の偉大さを感じた。特にO先輩はプランニング、旅行社との交渉、情報収集から始まり、トレーニング計画の企画立案、加えてトレ山行や合宿でのメンバーへの指導、育成を行い、チームの技術力向上とチームワークづくりを足かけ3年に渡って進めた。また、現地でも強力なリーダーシップを発揮していた。こうした偉大な先輩の陰を追いながら自問した、「自分には何ができるのだろうか…」。答えは、みんなの意見を聞こう、ワンチームとしてまとまろう、だった。果たして結果はご存じの通りですが、参加メンバーに支えられて、全員無事登頂という目的を達成することができた。これもメンバーそれぞれが自分の役割を果たし、一致団結してくれたからだと思っている。

今回の登山において、終始チームを盛り上げ、元気にしてくれた暁の6名を始め、ご意見番のケルンNさん、笑顔で運転してくれたさわらびEさん、いろいろとフォローしてくれた山路の3名、皆様に改めてお礼申し上げたい。そして、このメンバーにはぜひ相山協の中核となり、クラブの隔てなく協会員をリードしてってもらいたいと願っている。最後になりますが、突然の計画変更にかかわらず対処してくださったE会長を始め、A隊の皆様、協会関係者の方々のご尽力、ご協力に大変感謝しています。



## 人生初の北海道と旭岳・トムラウシ山登山

小池 洋司

北海道へ行くのは私自身初めてであり、しかも登山となると要領が分からなくて最初はどうすれば良いのか迷いましたが、打ち合わせ等に参加し詳しく教えて頂けたので、不安は無くなりました。

計画当初は縦走の予定でしたが、ヒグマの出没で避難小屋等の状況が日々変って行く中で、最終的に縦走は出来なくなり、残念な半面少し安心もしました。

結局、登山は2日目と4日目の2回に分けることになり、2回とも雨と霧に見舞われる結果となりましたが、北海道の山の厳しさを身をもって体験できて良かったと思います。

特にトムラウシ登山は、最初は雨の丹沢を彷彿させるぬかるみで、蒸し暑く汗だくになって登りましたが、標高を上げるにつれてアルプスを思わせる様な岩場になり、気温も下がって濡れたシャツが体温を奪うのを感じ、これでは本当に低体温症になると思いました。

しかし、もし快晴で登ることができたなら、花も景色も綺麗で本当に素晴らしい山なのだろうと、今回は残念な気持ちです。

また、3日目にヒグマ情報センターに行けたことも良かった。

今まで熊自体を目撃したことが無いので、生々しいヒグマの足跡や食痕を見たり、ヒグマについて知る事もできて良かったが、遠めで一目見たかったなど悔いは残りました。

最後に、今回の記念登山を通じて、他の山岳会の方々と懇親も出来て非常に楽しい記念登山となり、ありがとうございました。



## 北海道「大雪山・大雪山系の山々を歩いて」

小林 ふくえ

7/14(金)曇り (バス 飛行機移動)

道路が直線、信号機も少なく北海道の広さを感じ私達の住んでいる所とは別世界の様でもありました。

7/15(土)曇り、雨、晴れ、雨 (徒歩移動)「旭岳・黒岳・層雲峡温泉」

旭岳登山口からロープウェーに乗り降りると同時に雨が降り出し雨具を装着して登り出した。途中姿見平で A 隊 B 隊で写真を撮る。旭岳山頂ではタイミン良く雨が上がった。皆さんこの時ばかりとシャッターを切り楽しんでいる様でした。山頂から下り始めると、最初の雪渓が出てきた。それから間もなく幾重にも重なる花畑が表れ私達の目を楽しませてくれた。皆さんお花がきれい過ぎて驚きの声をあげていた。大雪のお花は色がとてもきれいで、特に私はコマクサの花色でした。朝晩の寒暖差があるからでしょうか？また雪渓歩きも、三ヶ所あり楽しめました。最初から最後までお花と共に登り下りが出来た登山に、大変満足しております。

7/16(日)曇り (マイクロバス移動)「大雪高原沼回りハイキング」

沼回りハイキングは、白雲岳辺りに熊出没の為コースも制限され、短縮コースとなりました。ハイキングの前に、必ずヒグマ情報センターで山と熊のルールを職員からお話を聞いてからハイキング開始です。話の中から職員の方々の熊に対する優しさも感じました。登山道脇にある私の肩丈程の水芭蕉今朝食べた後も見られ、この周りに熊がいると言う現実を、感じました。

タウシュベツ川橋梁は、いつ見ても素晴らしい景観ですが前回見た時よりも全体的に橋梁がスマートになった様に見えました。今回も水に浸かっていませんでしたが、この橋が水に浸かってベストな時期は、5月～8月で、9月～12月は橋梁が糠平湖の中に完全に水没してしまうそうです。

ただしその年によって、見られる姿は異なる様です。(タウシュベツ川橋梁は資料参考)

7/17(月)曇り (マイクロバス移動)「東大雪・白雲山」

白雲山山頂は、大きな岩が突き上げられたり、重なったり、支えられたりして出来ている山頂で非常に狭い所です。高度感と展望は最高で、然別湖が眼下見えお天気よければもっと、素晴らしかったでしょう。変化もあり達成感もあり楽しいハイキングでした。

7/18(火)晴れ、雨 (バス移動)

早いもので楽しいことは、あっという間に終わってしまいました。北海道 4 泊 5 日 70 周年記念登山の山旅を終えて参加者全員が、何事もなく元気に帰ってこれたことが、一番のお土産でもあり、協会会員の皆様と充実した山旅しながら楽しく過ごせたことが何物にも替えられない宝となりました。

また大雨の中での丹沢での合同トレーニングも良い思い出です。70周年祈念登山準備をして下さいました皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

## 創立 70 周年記念登山に参加して

柴野 正久

この度、創立 70 周年記念登山に参加させていただきました。当初この企画を聞いたとき「どうせ休みも取れないし参加できないな」と思っていました。実際会の山行でも仕事の都合で長期の休みはおろか土曜日でも基本仕事のため泊を伴う山行には中々参加できない状況でした。そういった事情から当初は「どうせ行けなくなるかもしれないけど申し込むだけ申し込んでおくか」位の気持ちでした。その為、どうにか出発の日を迎えることができたときはすでに感慨ひとしおでした。

さて、肝心の山行の方はと言いますと幕営地にクマ出没で予定が変更になるわ、事前の予報通り肝心の山に入る日は必ず雨にふられトムラウシ山アタックの日はさらに強風にさらされるなど残念ながら期待通りの山行とは少しかけ離れたものとなってしまいました。それでも、初日の旭岳縦走では雄大な風景やたくさんのお花を愛でることができましたし、二日目の移動日も予定になかった池巡りを堪能できました。そしてなんととってもトムラウシ山では条件が悪い中、山頂に立つことができたことで余計に達成感を味わうことができました。

そして、なにより印象に残ったのは普段一緒に歩くことのない他の会の方々がたくさんおしゃべりをし、交流を深めることができたことです。普段、相山協の行事等にあまり参加することのない私にとってはとても新鮮でしたし、いつもとは一味違った楽しい時間を過ごさせていただきました。また、今回のご縁を契機に今後も会の垣根を超えた交流ができればいいなと思いました。

簡単には語りつくせぬものがありますが、最後に今回の記念事業におきまして安全面はもちろんの事我々が有意義に過ごせるようご尽力していただいた皆様に感謝を申し上げ私の感想文とさせていただきます。



## 初めての北海道の山

村田 英二

飛行機で北海道に行き山に登るという初めての経験、しかも天気予報は滞在中悪い。正直期待より不安が多く重たい心境だった。更に1日目、旭岳ロープウェイすがたみ駅に到着すると雨が降り出しテンションが下がる。それでも旭岳の全容が見えたので少し気持ちは上向きになった。登山道左側に火山の噴煙を見て、生きている山を感じながら1歩1歩山頂に近づく。旭岳山頂では晴れ間も広がり周囲の山を見渡せて北海道の山に来た、という感覚を持てた。その後の花畑の広がりや山々が織りなす景観には魅了された。花より岩に興味のある自分だが、さすがに名前を覚えたいという気持ちが沸き上がり、詳しい中村氏に名前を教えてもらい数種類覚えた。北鎮岳から強い雨が降り始め黒岳石室までは長く辛い行程だったが、両側の小さな花々が疲れを忘れさせてくれた。

トムラウシ山も天気予報は相変わらず悪く、山頂まで7時間以上の登りを考えると憂鬱だった。前トム平の前で雨が降り出しレインウェアを着た。南沼キャンプ指定地からは経験したことのない強風にあおられバランスを崩し進むのがきつかった。最後は岩を這い上がるような形で山頂を踏み、メンバー11人と握手を交わり健闘を称えた。この悪天候では自分には難しいと思っていたので、この上ない達成感だった。また中村氏は数年前にトムラウシを断念していて今回念願を果たし、彼の「みんながいたから達成できた」という言葉にこちらの気持ちも熱くなった。

心配性で不安ばかりが膨らんでいたが、両方の山ともそれが嘘のように素晴らしい経験となった。たとえ厳しい環境でも山はかけがえのない経験を与えてくれ、そして仲間とその感覚を共感できる。山登りの魅力を改めて感じる事ができた。

今回、このような遠方で貴重な経験ができ、新たな仲間と関係を深められたのは、全体の予定を調整してくれた榎本会長や登山を率いてくれた勝又氏のお陰であり改めて感謝したい。



## ▼暁山岳会

### 相模原山岳協会 70 周年記念登山に参加して

小池 重憲

3 年ほど前に、トムラウシ(短縮登山口ピストン)、旭岳(ロープウェイからピストン)を友人と登ったが、その時のカムイミントラは本当に素晴らしく、「この二座をつなぐルートをずっと歩いて行きたい」と思った。しかし、当時山岳会にも所属しておらず、旭岳～トムラウシはハードルが高いと感じ、「行きたい！」と思った夢は、いつしか「行けたら、、」とだいぶトーンダウンしたものとなった。

自分の山行に限界を感じ入会した山岳会で、70 周年記念事業として「旭岳～トムラウシ縦走をやる」という情報は、諦めていた夢を思い出させるには十分で有ったし、1 人で行くには大冒険も、山岳会の先輩方達とならとだいぶハードルが下がったと感じた。しかし、北海道の山はヒグマの山なので、今回の縦走がヒグマ出没の報告が相次いだ件で、残念ながら旭岳～トムラウシの座をつなげなかったことはとても残念ではあるが、これも北海道の自然がなせる技として記念行事の記憶に残るものだと思う。

また、今回は相模原市山岳協会の主催と言うことで、相模原市内の他の山岳会の皆さんと様々な交流を図ることができた。それぞれの山岳会の特色を垣間見ることが出来たし、北海道前に行った神之川キャンプ場での懇親会も含めてとても良い機会になったのではないと思う。「また今度、是非一緒しましょう」そんな別れの言葉にわくわくした。山の魅力の 1 つ人との出会いがある。それをしかも相模原に在住の山を愛する人たちと言う括りの中で、たくさんの人たちに出会えたのは大きな財産となると思う。

今回、企画して下さった。榎本会長や留守居をして下さった役員の皆様、また A 隊を率いてくれた勝又隊長、そして参加された皆それぞれが自身の強みと経験を生かして、この会の成功のために貢献できたのは、とても良い経験だったと思う。改めてありがとうございました。





## 相模原市山岳協会創立 70 周年記念登山

國井 一卓

記念登山の話を聞いた時からずっとワクワクしていた。生まれ育った故郷の山。通っていた小学校や中学校の校歌にも大雪山は出てくるし、学校の校庭からいつでも見えていた山。当時は何らの感慨もなくただの風景であった。一方トムラウシ山については北海道で暮らしている時には名前すら聞いたことがなかった。母親にたずねたところ、やはり知らなかった。

旭岳は子供のころに学校の遠足で一度登っている。そして登山を始めた3年前にも登って今回は3度目… 黒岳に向けての縦走路は霧雨の中ではあったが素晴らしかった。宿題となってしまったトムラウシへの縦走はいつか再チャレンジをしたい。

下山後のキャンプ地では他の会の方々と一緒にお酒を飲む機会になった。良かった。みんな自分の会のことを大切にしている、それぞれ何かこだわりを持っているように思えた。

ヒグマセンターの散策では、クマのかけらも見られなかったのが正直がっかりした。怖いけれどやはり見たかったなあ。トムラウシ山は雨とガスで足元しか見なかったのか、すでにあまり記憶に残っていない。バッジが買えたからまあこれはこれで良しとして、またいつか来ようと思う。

最終日のパーティーでは、疲れの蓄積もあってすぐに酔っぱらってしまった。特に飲ませ上手な女子に自分から絡んで行ってしまい、返り討ちにあったのだが、あっという間に目が回ってしまった。

今回の相山協の記念登山には参加して本当に良かった。みなさまに心からお礼を申し上げます。他の山岳会の方々と交流する機会は、自分個人や会の立ち位置が確認できる…という点でとても意義のあることだと思った。その中にはどのように山岳会を存続させられるか、また発展していくかという各会共通のテーマに色々なヒントがあったように思う。



## 「宿題の山、トムラウシ」

田中 玲子

旭岳からトムラウシ山への縦走計画は今回で3回目となります。

1回目は33年前の9月、新婚旅行の大雪山縦走計画でした。下山口の新得に車を置き旭岳登山口まで電車で移動する予定でしたが、新得に着いた日に見た新聞には、ヒグマに襲われ亡くなった事故が3件も掲載されており、急遽ヒグマのいない利尻岳に計画変更しました。

2回目は2010年8月末、やはり今回のような雨具を手離せない天気の中、予定通りヒサゴ沼には到着したものの、夜間大雨が降り続き、トムラウシ大量遭難の翌年だったこともあり、層雲峡に下山。結果的に忠類川の決壊により東川町の役場まで温泉宿泊者と共にヘリで救助されることとなり、ヒサゴ沼からトムラウシ山のルートは10年以上宿題として放置していました。

今回の70周年記念登山は年齢を考えるとラストチャンスと考え参加させていただくことにしました。まさか直前にヒグマの親子により計画を変更することになるとは予想だにせず…

それでも会長はじめ多くの方の柔軟で適切な対応により、旭岳から黒岳のルートを歩き、いちめんのお花畑に感動することができました。そして懸案だったトムラウシ山も往復ではありますが無事登頂することができたことを深く感謝致します。

また16日移動途中に立ち寄った大雪高原温泉の沼巡りでは、ヒグマ情報センターでのレクチャーの後、実際のヒグマの足跡や痕跡を見たり、北大熊研の学生さんたちのヒグマに向き合う真摯な姿に、なんだかヒグマが愛らしく思えるようになりました。

今回普段一緒に登ることのない相山協のみなさんと山行だけでなく飲食を共にし、たくさんの山の話しが出来たことも大きな収穫でした。これからは山を通しての人との繋がりを大切にしていきたいと思います。みなさん、お世話になりました！



## 初めての北海道の山々

千々和 宗一

40年ほど前に北海道旅行の際に層雲峡からリフトを乗り継ぎ、黒岳まで登ったことを思い出した。

山行初日、旭岳ロープウェイ山頂駅は小雨が降っていたが、視界良好、しかも登るにつれ雨も止みかけ、時折陽もさす天気。旭岳山頂では360度の素晴らしい展望を堪能した。

これから黒岳に向かう縦走路には高山植物が乱舞、カメラを片手に花たちと会話する。自然と歩く速度もゆっくりとなり、先をゆくメンバーとの距離も開いてしまう。その度に小走りで前を追いかける。これほどのたくさんの種類、そして群生は見たことがない、感動と興奮の縦走路だ。大雪山の広大な姿と植物の群れは、圧巻だった。進むにつれて花の種類も変わるので歩いていても全く飽きない。北鎮岳分岐あたりについた頃からガスが湧き始め、展望はなくなってしまったが、花々はいつも我々のそばにあり、私は元気づけられた。

翌々日朝早くトムラウシ短縮登山口からトムラウシ山を目指す。歩き始めからぬかるみに悩まされる。「泥」との戦い？少しでも足元が汚れないようにぬかるんだ登山道を気にしながら歩くが、すぐに諦めた。せめて泥に足をすくわれないように注意するのが精一杯。樹林帯の中にクマが潜んでいるのではないかと。ガスの中からクマが我らを見ているのではないかと、こちらも気になってしょうがない。樹林帯を抜け、トムラウシ公園に入るがガスでほとんど見通せない。それでも綺麗な場所であることは想像できる。トムラウシ山頂もガスの中であつたが満足だった。

初めての北海道の山、天候には恵まれなかったが北海道の自然の大きさに驚かされ、人が近づきたい山には、太古からの記憶があり懐かしささえ感じた。

山行中の各山岳会のメンバーとの交流など、貴重な経験をさせていただきました。また、準備を進めていただいた皆様には大変感謝いたします。ありがとうございました。



## 相山協 70 周年記念登山に参加して

細田 剛

トムラウシ山を知ったのは私が登山を始める前、2009年に起こった遭難事故がきっかけだった。今回のコース、幕営地などの行程は事故の時と同じ。日程も1日違いで、やはりとても意識した。

幕営予定地の白雲岳避難小屋近くにヒグマが出没していることを知ったのは出発の10日前、幕営予定日にテントサイトが利用禁止となったのは出発の6日前の夜だった。そこからそのテントサイトを避けたルート選定のための意見交換が始まった。

記念登山のため、旭岳、トムラウシ山への登頂は外せず、結局山行1日目は旭岳から黒岳への縦走、2日目を移動日とし、3日目にトムラウシ山を往復することになった。

初日、旭岳ロープウェイ姿見駅を出発する前に雨が降り出したため、皆雨具を着て歩き出した。所々から噴煙を上げている地獄谷を見ながら旭岳に着く頃には雨はすっかり上がり、遠くの山、広がる雲海を見渡せた。その後雪渓を下り、直径3kmほどのカルデラ状になっている御鉢平の雄大さと足元に可憐に咲く花々を楽しんだ。中岳を過ぎたあたりから降り出した雨は、その後黒岳まで降っていた。リフト、ロープウェイを乗り継ぎ下山した。

2日目に立ち寄ったヒグマ情報センターでは、温泉の開店時刻まで時間があつたことから、急遽登山靴に履き替え、緑沼まで1時間以上のコースを歩いた。そこには真新しい食痕、足跡、フンがあり、ヒグマの存在を間近に感じた。

3日目のトムラウシ山では前半の樹林帯では泥濘でドロドロになり、こまどり沢以降の開けた場所も厚いガスで景色を楽しむことはできなかった。この日も終始雨具を着ていた。縦走できなかったことは残念に思うが、車での大移動で北海道の道や街の風景を楽しむことができた。

直前での計画変更に伴い調整、手配をしていただいた榎本会長、勝又リーダー、長距離の運転をしていただいた榎本幸二さん、國井さんを始め、皆様に改めて感謝いたします。



## 思い詰まった北海道遠征

森 秀光

ここ数年来、種々の事情で相模原の方々との交流は粗途絶えていたが、丁度自由の身になったタイミングで気になるメール有り。山岳協会記念登山として、北海道・大雪山からトムラウシ山への縦走が計画されているとの事。是非参加したいと思ったが、何分三重県からの参加となると、流石に調整が必要。それでも車は大谷前会長の御自宅で預かって頂ける等、色々協力を頂ける事になり、折角なので参加させて頂く事になった。

4月丹沢での事前トレーニング。篠突く雨降り続く苦行となったが、会や協会の懐かしいの方々との久々の再会がとても嬉しくて。また遠征に向けての準備段階においては、遠方である故に殆ど協力が出来ずに申し訳ない。直前の計画変更も本当に大変だったと思うが、計画して頂いた方々には本当に感謝しかない。

前日13日、夜から車で移動開始、途中道の駅で車中泊。待ちに待った遠征で、気持ち昂り左程眠れず。14日相模原駅から羽田空港へ。飛行機でひとつ飛びであつという間に北海道上陸。飛行機は途轍もなく早い事を実感。愈々明日からの山行本番を控え、気分ワクワク。

15日、遂に山行当日、残念な事に雨模様。それでも早々に雨は止んできて、展望あつたのでラッキー。飛び出た旭岳山頂、果てし無く連なる茫洋で優美な山塊に暫し絶句。美しい珍しい花々にも興味深々。

16日、途中見掛けたヒグマの糞に、存在を身近に感じ一寸恐怖感。緑沼で出会った北大クマ研や快活な女性ガイドの方々も印象的。

17日、トムラウシ山。辿り着いた先のトムラウシ公園は、正に天空の別天地。霧が抜けずに隠見だったが、神々住まう楽園のようで、その荘厳さは十分に実感。その後の山頂は雲の中、展望皆無だったのは残念。夜は全員集合しての大宴会。以前山岳協会の行事で御世話の方々と久々に御話が出来て本当に楽しかった！

18日、もう終わってしまうのが何だか寂しくて…。参加者の皆様、御協力頂いた方々、本当に有難う！！



## ▼ケルンの会

### 創立七〇周年記念登山北海道大雪山・トムラウシ 大雪山縦走編

市川喜久夫

待望の北海道登山の日が来ました。私は北海道の山に登るのは今回が初めてです。最初は何も分からずトムラウシ縦走を考えてましたが事前説明会に出席するうちにテント泊での縦走は体力的に厳しい事を感じ大雪山縦走に変更しました。

初日の旭川空港の天気は晴れで気温は二十四度、蒸し暑く無く爽やかな暑さでした。地元のスーパーで買い物を済ませ宿泊先へ。

2日目の朝六時にホテルを出発し旭岳登山ロープウェイまで歩く。天気は曇りで時々弱い雨が降る程度、ガスが掛かって無く視界はマズマズでした。九時四三分頃に旭岳頂上に到着、そこからの景観は感動モノでその後、間宮岳、中岳と歩き途中の雲ノ平の高山植物チングルマ、キバナシャクナゲ等の高山植物の群生は本州の群生を上回る規模で流石、雄大な北海道だと別世界観を堪能出来ました。黒岳山頂は十五時三十七分頃に登頂でき層雲峡温泉まで下山。

翌日は東大雪の白雲山と天望山に登る予定でしたが観光協会からの情報で登山道が荒れているとの事で白雲山だけの登山に変更。湖畔コースであり各沼が美しく水面に移る木々を見ながらの昼食は最高でした。登山道沿いの水芭蕉は尾瀬の水芭蕉と大きさが違い巨大で、熊が食べ荒らした形跡がいくつもあり熊が身近に感じ熊に見られている気がします。白雲山の頂上からの景色も素晴らしく頂上では地元の登山者との話も聞けて楽しい時間でした。

今回の北海道登山に参加で自然の雄大さと高山植物の群生に多くの感動を得ることが出来ました。その記憶はいつまでも脳裏に残ると思います。また、大雪縦走隊十一名の登山はゆっくりとしたペースで無理なく安心して登ることが出来良かったです。昨年よりこの日のために準備、観光会社との打ち合わせ進めて頂きありがとうございました。感謝申し上げます。



## 70周年記念登山 A隊大雪山縦走に参加して

村松千鶴子

土砂降りの丹沢表尾根トレーニング山行で、もうこれ以上の雨は無いかも・・・という体験をさせて頂いたので、体力には不安があるものの何故か安心をして本番に臨むことができたような気がします。

白雲岳のヒグマの出没でB隊の予定変更があり、会長とリーダーのご尽力で無事に乗り越えることができたことに感謝します。姿見からB隊が先行したので、後からのんびりとB隊はどこまで行ったかな～と思いながら、高山植物と景色を楽しみながら歩きました。

翌日の沼巡りもヒグマの影響で緑沼までの往復になってしまいました。直近の熊の足跡の大きさに驚いたり、水芭蕉が好物だと知ったり、またB隊と一緒になったりで、思い出深い沼巡りになりました。然別湖登山口の白雲山ハイキングは、頂上直下の石山に苦戦し、狭い頂上で寄り添うようにしての記念写真撮影が楽しかったです。

トムラウシ温泉東大雪荘に予定より早く着いたので、温泉にゆっくり入り、B隊の到着を待ちました。泥まみれの雨具やテントを拭いている姿に感動です。全員無事に下山したことを祝して、記念登山最初で最後の合同の宴会になり、とても楽しかったです。

他の会との山行はあまり経験したことがありませんでしたが、各会の皆様とご一緒させて頂き大変勉強になりました。どうもありがとうございました。



## 相山協 70 周年記念登山に参加して

山崎 由佳里

今回、相山協の70周年記念登山として、北海道の登山としては初めて大雪山縦走に参加させて頂くことになりました昔、札幌に4年間ほど住んでいたことがありましたが、残念ながら、当時は全く登山をしていなかったのが、徐々に期待が高まりました。うち合わせを重ねて、旭川空港に向けていざ出発でしたが、当日の旭岳ロープウェイ姿見駅は、あいにくの雨模様、レインウェアを着てのスタートとなりました。

展望台から望む雄大な旭岳は、ところどころ噴煙が上がリ、広大な大雪山系へ誘ってくれているよう。遠くゼブラの雪渓を臨み、エゾノツガザクラ、チングルマなど一面のお花畑に心を和ませながら、時に強風が吹き荒れる中を歩いていきました。歩を進めていくにつれ、アイヌの人々にカムイミントラと呼ばれて崇拜され、畏敬の対象とされてきた山々の威容を、肌で感じる事ができました。つかの間の夏のあいだ、人間である自分が雄大な大自然の中に、少しだけお邪魔させてもらっている、ありがたいような、何だか申しわけないような、不思議な感覚でした。また、黒岳で野生のシマリスや鹿が愛らしく、近距離で観察できたことも印象的でした。

翌日からは、大雪高原温泉でヒグマに関するレクチャーを受けた後に沼めぐりをしたり、水位の変動によって見え隠れするタウシュベツ川橋梁展望台を訪れたり、白雲山頂から絶景の然別湖を臨んだり、北海道ならではのスイーツを楽しんだり、観光やグルメもかねて様々な角度から、旅を楽しむことができました。今回初めて他の山岳会のメンバーの方々とご一緒できて、あらためて登山についての知識や交流を深めることができ、とても良い経験になりました。記念登山の計画の段階から、旅行や食事の手配、計画全体の練り直し、登山についての助言や指導に至るまで、皆様、大変お世話になり有難うございました。





## 創立 70 周年記念登山に参加して

中村 富夫

2022 年秋頃から少しずつ計画が動きだしケルンからは最終的に 4 名となり A 隊＝大雪縦走隊には 3 名、B 隊＝トムラウシ縦走隊には 1 名の自分と分かれて参加することになった。

山行スケジュールも決まりだし 2023 年 4 月中旬には A 隊 B 隊合同トレーニングも開催され B 隊の我々はテント泊フル装備での丹沢登山となった。当日は朝からの雨で集合場所の駅で雨具着用し全員タクシーに乗車しヤビツ峠へ。A 隊、B 隊の列で表尾根を登る。三ノ塔で A 隊とは別れ我々は塔ノ岳を越えて大倉高原テント場を目指す。降りしきる雨にザックの中身や雨具も染みて衣服も濡れて今後の山行への反省となったのです。

いよいよ出発の日を向かえ集合場所では大きなザックで賑わっていた。快適な空の旅を過ごし北の大地に着くと気温がだいぶ違い快適だった。

B 隊の計画はヒグマの関係でテント場が使用禁止となり大幅に変更を強いられレンタカー 2 台を使うことになり出費がかさむ。トムラウシまでの縦走が出来なくなり日帰り登山の繰り返しとなり宿泊道具類を背負うことも無くなり気持ち的体力的にもかなり楽になったのは良かった。

2 日目、大雪山縦走の日、姿見の登山口は気温 13.7°小雨で雨具着用での出発となった。ロングコースの各所はフラワーロードとなり高山植物に癒されながら 6 年前に歩いたこのコースを思い出しながら歩くがその頃より体力は落ちているな～と感じ進む。黒岳下山は少し楽をしリフトで降りる。下山後は層雲峡野営場でテント泊

3 日目は移動日、層雲峡滝見学をしてから途中で温泉に入る予定が沼巡りになり A 隊が先を歩いているコースに行くが沼は山の中腹にありちょっとした登山になった。途中の登山道にはヒグマの足跡や水芭蕉の茎を食べた後を見ることで身近にヒグマのいることを実感する。

下山後は移動の途中でコンビニで食料買い出しを済ませトムラウシ温泉野営場でテント泊。夕食は暁山岳会の皆さんにジンギスカンやご飯他を連日作っていただきありがとうございました。

4 日目は 6 年ぶりのリベンジ登山となるトムラウシ山、ケルンでの山行時には大雨であえなく中止となり今回はと意気込む。曇り空であったが雨具を着用し各所でドロドロの登山道を歩き先頭を歩く山路会の M さんの足元を見ながら必死で追いつきながら山頂を目指す。記念登山が決まってからは自分なりにザック重量もフル装備並みにし何回も山行を重ねてトレーニングして来たという思いがあり絶対にやりきる思いで歩いた。山頂が近くなり岩ゴロの蓼科山を思わせる道をふと見上げると山頂標識が見え感動の一瞬であった。山頂からの景色は残念ながら無く登頂写真を撮り早々に下山をした。往復 11 時間越えの登山は疲れた感が無く達成感のほうが強かったと思った。今夜の宿の東大雪荘で温泉、全員で夕食打ち上げ時のビールは格別だった。

記念登山に関し各計画手配をされた役員、B 隊の相模山路会、暁山岳会、さわらびの皆さんと一緒に目的達成できたことに感謝いたします。

70周年記念登山会計報告 2023.8.5現在

項目	単価	数	金額	トムラウシ隊	大雪隊	備考		
相模原観光への支払い	航空料金+宿泊	107,000	11	1,177,000		107,000	大雪山縦走隊11人	
	セット料金(企画料)	82,000	12	984,000	82,000		トムラウシ縦走隊12人	
	貸し切りバス代		76,640	2	153,280	6,664	6,664	相模原 羽田往復
			68,000	1	68,000	2,956	2,956	旭川空港～旭岳温泉
			193,000	1	193,000		17,545	マイクロバス 2日間
			23,760	1	23,760	1,980		短縮登山口～トムラウシキャンセル料
			108,900	1	108,900	4,734	4,734	トムラウシから帯広空港まで
	帯広昼食(7/18)	1,650	21	34,650	1,650	1,650		
	航空代金(2名分)	31,370	2	62,740	1,369	1,369	旭川空港～羽田空港	
	航空代金(払い戻し)2名分	-19,370	2	-38,740	-1,684	-1,684	帯広空港～羽田空港	
	航空代金(取り消し手数料)	6,000	2	12,000	522	522	上記取り消し手数料	
	事務手数料	1,100	3	3,300	143	143		
	バス駐車場代金	1,500	1	1,500	65	65	羽田空港	
小計			2,783,390	100,399	140,964	相模原観光への支払い		
協会独自支払い	レンタカー		2	243,100	20,258		5日間 2台	
	ガソリン代		2	19,100	1,591		2台分	
	旭岳ロープウェイ		23	42,500	1,847	1,847	23人分	
	黒岳リフト・ロープウェイ		21	37,400	1,780	1,780	21人分	
	7/17(最終日)飲み物		23	32,600	1,417	1,417	東大雪荘	
	キャンプ場使用料補助		12	10,000	1,133		層雲峡・トムラウシ	
	その他経費		23	41,848	1,394	1,394	消耗品他	
	小計			426,548	29,420	6,438		
事前トレーニング登山経費		23	31,622	1,375	1,375	交通費(タクシー代他)		
合計		23	3,241,560	131,194	148,777			

(1名当たり約 141,000円 132,000円 149,000円)

経費総額	-	参加者負担金	=	協会負担額
3,241,560		1,532,000		1,709,560 (報告書印刷代含まず)

※参加者負担金

トムラウシ縦走隊 47,000円×12名=564,000円

大雪縦走隊 88,000円×11名=968,000円

(参加者負担金の算定は、当初(3月時点)の見積もりで算出した。

実施直前にやむなく、計画の変更により経費が増大したが、負担金の振込も済んでいたため当初の金額で処理した。)

- ・その他経費(41,848円)内訳
- ・トムラウシ及び大雪縦走隊記念横断幕作成謝礼(山路会田口さんへ) 15,000円
- ・レンタカー返却後旭川空港までのタクシー代 8,300円
- ・宅配便(旭川からトムラウシへ) 2,070円
- ・その他土産コピー代等 16,478円



相模原市山岳協会70周年記念登山記念誌

発行 令和5年10月

編集 相模原市山岳協会70周年記念登山実行委員会